

らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

春は怒涛の締切りラッシュですが、あえてこのタイミングで、投稿エッセイを書きました。

全 80 枚 (42 字× 34 行) で、約 63,000 文字という、無駄に本気なボリュームです。

【縦書き PDF】

[Rakuda_Special.pdf](#)

【ウェブ閲覧】

<http://p.booklog.jp/book/67102>

基本的にはこのブログの延長ですが、らくだの漫談に興味がないという方は、第二章「落選したら読む記事」だけでも！

自分の能力に絶望した時、どうすれば前を向けるか？
小説投稿をやめたくなった時、どうすれば意欲を取り戻せるか？

そういう経験談なので、きっと損はさせません。
万一「損をした！」という場合には、責任を持って全額返金いたします。

……………。

あ、返金も何も、この作品は無料公開だった！

というわけで、是非ともよろしくお願いします。

しかし、2月に優先順位を無視してコレを書いたせいで、電撃に投稿する新作がまだ0枚(!)という状況ですが……………。

そういうわけで、リアルに投稿できない可能性もありますが、その辺のきわどいスリルも楽しみつつ、これから40日頑張ろうと思います。

『らくだ図書館スペシャル』ですが、パブ版が一日で 300 アクセスを突破したようで、かなり本気でビビっております。

ど、どうしよう……？

投稿者なのに執筆論とか、偉そうに見えないかな……？

もしそうだったら、困ってしまいます。

だって、自分は！

偉そうにするよりも、偉い人に蹴られる方が、根本的に好きですからね！

その証拠に、ほら。

投稿に使えない物をわざわざ書いて、肝心の原稿が真っ白の状態なわけですよ。

そんなことをして、自分の首を絞めているあたりが、もう完全にドM というか。

しかも、執筆論を書いたせいで締切りを落としたら、それこそ「アイツは何だったんだ？」って話になりますよね。

周囲の笑い者になる、恥ずかしい自分……！

少し想像しただけで、ドキドキしてくる……！

えー、コホン。

まあとにかく、見てくださった方は、本当にありがとうございます。

その中でも書きましたが、誰かに読んでもらえることが、自分にとって何より最高に嬉しいご褒美です。

というわけで。

まだまだ不完全な投稿ブログですが、これからもよろしくお願いします！

今日はひなまつりでしたが、部屋の中にピーナッツをまかれることもなく（節分の記事参照）、平和に一日が終わりました。

豆の代わりにピーナッツを使うなんて、発想が斬新ですよ〜。

そして、豆といえば。

まだ少し早いですが、ビーンズに投稿しました。

そうです。

四月の予定がエグイので、今の段階から前倒し投稿です。

しかし、怖いです。

ビーンズに参戦するのは、正直言ってビクビクです。

この気持ちは、そうですね。

ドラクエで言うと、「どうのつるぎ」でラスボス戦に挑むような、そういう心境です。

すべてのターンで会心の一撃を出さなければ倒せない……！

っていうか、そもそも本当は勝つ気ないだろ？

お前の目的は、受賞ではなく、ネタ作りだろ？

……………。

そう聞かれたら、否定はできねえ。

いや、本当はネタじゃないですよ。

あのピンクピンクしたページに、自分の名前を是非載せたいです。

そういうわけで、ビーンズに投稿される皆様は、よろしくお願いします！

共に戦い抜いて、打倒ラスボス……！

四大陸選手権のエキシビジョンが、3月9日に、BSフジで放送されるみたいですね。

先月のオンエアは関東ローカルでしたが、こうしてBSで放送してくれるなら、兄に頼まなくてやっぱり正解でした。

そして、そして！

四大陸のエキシビも楽しみですが、来週からは世界選手権が始まります！

うーん……。

今シーズンも色々なことがあったけど、ついにワールドの季節なんですねえ……。

ちなみに、今年度（2012年度）会場へ見に行けたのは、以下の4試合でした。

- 4月 国別対抗戦（代々木）
- 9月 中部ブロック（名古屋）
- 12月 全日本（札幌）
- 2月 四大陸（大阪）

どの試合も楽しかったけど、来シーズンはオリンピックもあるし、さらにもっと盛り上がること必至ですよ！

とりあえず埼玉の全日本へは行きますが、その他の試合にも、行ける限りたくさん行きたいと思います。

とまあ、そういうわけで。

3月になったというのに、次に何を書くか決まっておらず、いまだに電撃用の原稿が0枚という状況です（汗）

まっ、まあでも、焦りは禁物ですよ！

こういう時こそ自分を信じて、一步一步、確実に進めていこうと思います。

小肥羊（シャオフェイヤン） - 2013.03.05 Tue

本日は、火鍋のお店を紹介します。

『小肥羊（シャオフェイヤン）』

<http://www.hinabe.net/>

中国各地に存在する火鍋のチェーン店なのですが、なんと日本にも出店していると知人が教えてくれました。

渋谷、赤坂、新宿、池袋、銀座、関内、大宮、札幌、心斎橋

今のところ、以上の9店舗。

西日本は心斎橋のみということで、わざわざ心斎橋まで食べに行きました。



肉はいいですね！

見ただけでテンションが上がります！

部屋は扉つきの個室で、テーブルも広く、雰囲気も文句なしです。

そして、肝心の鍋なのですが、



左が白湯（パイタン）、右が麻辣（マーラー）。

しかし、コレ。

真っ赤な写真を見てわかる通り、唐辛子の量が、ちょっと半端じゃありません。

しかしこのからさが、本当に病みつきになる！

「からい、からい」と叫びながらも、自分はひたすら麻辣専門で食べました。

火鍋って相当ピンキリですが、さすがに本場中国のチェーンだけあって、小肥羊は本当においしい（特に麻辣が）と思います。

残念ながら店舗は少ないですが、からい物好きの方には、全力でオススメです……！

自分は血管が細いらしく、前に献血へ行った時、注射を失敗されたことがあります。

コレ、本当にビックリしたんですけど……。

どう失敗したかと言うと、腕に針を刺したのに、血管に入らなかったという……。

しかも恐ろしいことに、看護師さんが「狙いを外したので、血管を探しますね！」って言うんですよ。

ちょっ！

今から探すの！？

しかし、「イヤです」とも言えないじゃないですか。

だから「はい」って答えたら、看護師さん、らくだの腕の中で針先を回すんですよ。

……………ッ！

腕から広がるあの痛覚は、ちょっと未体験の領域でした。

それで、その状態がしばらく続いたんですが、結局のところ、

「血管が見つからないので、今日の献血は諦めましょう！」

ノオオオオオ！

人助けできず、ジュースも貰えず、これじゃ単なるドM体験じゃないですかあああ！

という、信じられないマジ話。

結局ジュースは貰えましたが、「諦めましょう！」はビックリでした。

本当に……。

あの未体験ゾーンを考えれば、一発でちゃんと入る注射なんて、全然痛くないと思えますね……。

前に西遊記モノを書いた時に思ったんですが、元ネタのある作品って、オリジナル作品とは違う難しさがあると思います。

西遊記に限らず、かぐや姫でも桃太郎でも、シンデレラでも。

なんというか、ほら。

元ネタがあると、話の根幹となる部分を、丸ごと借りられるじゃないですか。

登場人物、基本的な性格、キャラクター配置、大まかなストーリー……。

もちろん元ネタそのままでは意味がないので、そこに自分の解釈をプラスするわけですが、書き手としてはある意味とっつきやすいですね。

それと同時に、読者にとっても、元ネタのある作品はとっつきやすいと思います。

西遊記なら「天竺へ経典を取りに行く」、桃太郎なら「三匹のお供と鬼退治」。

そういう大筋を読者も知っているので、予備知識のある状態で読んでもらえます。

でも。

予備知識があるからこそ、読者を楽しませるのは、逆に難しいと思うんですよ。

ストーリーの行き着く先が相手に見える分、よっぽど上手く書かないと、「予想通り」で終わってしまうというか。

元ネタのある作品は、「書く」のは簡単だけど、「面白く書く」のは至難の業。

だからこそ、オリジナル作品以上に、キャラの掘り下げが必要になってきます。

……ということを、SDの評価シートで指摘されて、なるほどなぁと思いました。

自分は元ネタがある方が簡単だと思っていましたが、そのコメントには確かに深く納得できたので、今後作品を書く上で注意したいなと思った部分でした。

今日はちょっと、昨日の記事の補足を。

元ネタのある作品は、作者にとって書きやすい反面、オリジナル作品とは違う難しさがあると書きました。

たとえば西遊記であれば、原典そのものと比較されるのはもちろんのこと、西遊記をモチーフにした数多くの名作とも比較されるので、作品に期待されるレベルは必然的に高くなります。

だからこそ。

ストーリーを手堅くまとめるだけでは、読み手の心に残る作品に仕上がりません。

そこで必要なのが、キャラの掘り下げ。

ストーリーで個性を出せない分、オリジナル作品を書く時以上に、その部分（キャラの魅力&吸引力）を意識して書くべし。

……ということを指摘されて、目からウロコが落ちまくり。

一次落ちした瞬間は結構ショックでしたが、そのコメントに自分自身が納得できたので、今はすごく爽快な気分に戻りました。

まあでも。

難しいことはわかりましたが、それでも、挑戦する価値はありますよね。

元ネタがある作品を書くってことは、型がある中で作品を展開するっていうことで、作者の力量が純粋に試される場でもあるわけで。

そういうわけなので、西遊記はもう書かないと思いますが、昔話やおとぎ話には今後も積極的にチャレンジしようと思いました。

私たち文章を書く人間にとって、「セルフプロデュース」って、すごく大事なことだと思います。

小説も当然そうだし、ブログだってそう。

文章ってある意味「気持ちそのもの」なので、精神状態が荒れている時は、楽しい記事を書くことができないんですよね。

楽しいことを書こうとしても、攻撃的になったり卑屈になったりして、自分をコントロールできないというか。

でも。

私たちの目標は、文字を使って、相手をハッピーな気分させること。
だからこそ、自分の小説やブログを、マイナス感情の吐き出し場所にはしたくない。

……と思いながら、かれこれ 14 か月ほど、このブログを続けているわけですが。

「おかげで」と言ったら変かもしれませんが、自分の感情をコントロールする能力は、それなりに身につけてきたかなあーと。

ものすごくテンションが低い日も、それを記事に反映させることなく、毎日同じクオリティの文章を書き続けていく能力。

そういう意味で、セルフプロデュースは大事ですよ。

心が負の感情に支配されていると、どうしても愚痴や文句を書きたくなくなってしまいますが、それをしないこともプロとしての一つのプライドだと思います。

まあ自分はプロじゃないですが、「文章をマイナス感情の吐き出し場所にしない」というのは、常に気をつけていたい部分です。

前に主人公を二十歳の大学生に設定した作品を送ったら、GA の評価シートで、「主人公の年齢設定が高すぎます」と指摘されたことがあります。

そうか……！

二十歳で高すぎるなら、昭和生まれの自分は、もう死ぬしかないってことか……！

いや。

リアル年齢の話じゃなくて、「主人公の年齢」の話ですけどね。

それはわかっていますが、地味にショックでした。

その作品の評価シートは5枚くらいありますが、他の賞では一切言われていないので、GA はストライクゾーンが狭いんだなあと。

ええ、そうです。

GA 後期で4作品が一次落ちした件を思い出して、今頃になって逆恨み記事を書いていますけど何か？

まあでも、内容によっては主人公を高校生に設定できない場合もあるので、年齢について言われちゃうのは書き手として正直ツライなあと。

つまるところ、GA にはもう送らない方がいいんでしょうね。

うっし！

この一文を書いたことで、ちょっと気分が晴れた！

昨日「感情のコントロールが云々」と言ったばかりなのに、その翌日に特定の賞に対する愚痴を書いて、一人で自己満足している常木らくだ。

そうはいつでも、年齢は自由に設定したいですね。

その設定を評価してくれた賞もあるので、悲観的にならずに改稿に励もうと思います。

昨日は年齢の話をしました、今日は視点キャラの性別の話。

これはGAではなく、えんための話ですが。

いかにも最近の少年系ラノベっぽい、軽めのラブコメを投稿したんですよね。

しかし、そのままでは個性がないと思って、あえてヒロインの視点で書いてみたんです。

そうしたら、案の定というか、「この内容なら主人公の一人称にした方がよかった」というコメントが返ってきました。

無念だ……。

「あえて」ヒロイン視点で書いたのに、その「あえて」を否定されてしまった……。

それで思ったんですが、「少年系・少女系」の振り分けって、難しくないですか？

たとえば、少年系ラノベにも、視点人物が女性キャラの作品はありますよね。

それこそ『スレイヤーズ!』とか、『銀盤カレイドスコープ』とか。

それとは逆に、少女系ラノベの中にも、視点人物が男性キャラの作品はあります。

アニメ化されたあたりでは、ビーンズの『今日から魔王!』とか。

だからこそ「視点人物が男⇒少年系」「視点人物が女⇒少女系」ってわけでもなく、そこは内容で振り分けなきゃいけないんだろうけど、その振り分けがものすごく難しいと思うんですよ。

「何となくわかるでしょう？」って言われそうですけど、自分はその「何となく」が本当にわからない状態で……。

なのでとりあえず、少年系のつもりで書いて落ちた物を、春の少女系の賞に送ってみるつもりです。

一次通過、なるか……！

主人公が大学生では年齢設定が高すぎる、とか。
視点キャラクターは男にした方が無難だ、とか。

前回、前々回の記事に書いた通り、選評でそういう指摘を受けたわけですが、自分はこの内容にまったく同意できません。

主人公が高校生の男子でなきゃいけないなんて、書き手としてあまりにも窮屈じゃないですか？

もちろんそういう話も書きますが、そうじゃない話だって書きたいです。

だからこそ、ストーリーがどうこう以前に、そういう基本設定に NG を出されるのは、ちょっと納得がいかないなあと。

しかし、賞が悪いわけじゃないのも、十分にわかっているつもりです。

出版社だってボランティアで本を出しているわけではないのだし、「主人公は高校生男子にした方が売れるからそういう作品が欲しい」と思って選考をするのは、誰にも責められることではないはずです。

じゃあ何が問題かっていうと、それが結局「相性」かなあと。

同じ少年系ラノベであっても、主人公の年齢や性別に言及してこない&ちゃんと問題なく通過できる賞もあるので、そこは投稿者自身が賞の特性をしっかりと見極めて、折り合い不可能な賞については投稿をやめればいいと思うわけです。

いいんです！

それは「逃げ」ではなく「選択」です！

先日の『スペシャル』にも書きましたが、本気で思っていることなので、こうしてもう一度書いてみました。

もう一つだけ愚痴を言っていいですか？

これも GA の話ですが。

以前、メインキャラが男二人で、友情がテーマの作品を送ったんですよ。

そうしたら、「キャラ B を女の子にしろ」という趣旨の選評が返ってきて、心底やりきれない気分になったことを覚えています。

実際は「女の子にしろ」という言い切りではなく、「女の子にしたら印象は違ったと思う」という遠回しな表現でしたが、キャラクターの性別を変えろっていうのは……。

確かにキャラ B を女の子に変更すれば、ラブコメっぽくなるのかもしれませんが。

自分自身も、ラブコメは好きだし、よく書きます。

でも、その作品は友情が書きたくて考えた話なので、それをラブコメに変更してしまったら、その作品を書く意味が完全にゼロになってしまいます。

……ということ、本当は相手に思いっきりぶつきたいんですが、投稿者が選評について意見することは不可能なので、こうしてねちこく自分のブログに書いてみました。

以上は愚痴ですが、これってある意味、投稿をする上で究極の問題ですよ。

評価シートを信じて、自分の信念を放棄するのか。

自分の信念を信じて、評価シートを無視するのか。

答えはケース・バイ・ケースだと思いますが、その作品のテーマが友情であることだけは絶対に譲れないと思ったので、この件については評価シートを無視しました。

そんなことをしているから一次落ちなのかもしれませんが、どうしても守りたい部分だけは、どれだけ落選してもこれからもずっと守っていくつもりです。

ここ数回にわたって、評価シートに対する、個人的な愚痴を書きました。

そうはいつでも、「選評なんかクソくらえ」とは、考えていません。
自分の作品に悪い箇所があれば、何十回でも喜んでリライトします。

じゃあどうして、愚痴を書いたか。

それはやっぱり、何故その作品を書いたのかという、根本の部分だけは変えられないと思ったからです。

友情が書きたい。
友情を表現したい。

そう思って作った作品なのに、ラブコメに変更してしまったら、その作品は「自分の伝えたいこと」じゃなくなってしまう。

そうなったらもう、どれだけ評価されようが、小説を書く意味がないと思うんです。

自分は何が書きたいのか？
自分は何故小説を書くのか？

そういう書き手としてのプライドは、書き手じゃない人（編集者さん含め）には絶対にわからないと思うので、自分自身で守るしかないと思うんです。

……という、編集者さんを敵視する意見をわざわざ書いて、デビューからますます遠ざかっていく常木らくだ。

まあでも、最近「それでいいや」という心境かもしれません。

自分はただ文章を書くことが心底大好きで、それは何があっても永遠に変わらないことなので、受賞以上にまずはその感情を大切にしたいと思う今日この頃です。

まったく隙のない完璧な作品を書くのが理想でも、それは簡単にできることではなく、理想と現実の差って少なからずありますよね。

その差を数字で表現すると。

投稿を始めた頃は、自分の現状が「3」で、理想が「10」だと思っていました。
だからこそ、「7」の差を埋めたくて、常にものすごく必死だった部分があります。

じゃあ、今はどうかっていうと。
今は自分の現状が「5」で、理想が「100」だと思います。

投稿を始めた頃より「2」レベルアップしたけど、同時に天井が果てしなく高いことがわかったので、理想と現実の差は「95」……。

だからこそ、なんかもう、焦らなくていいやと。

この「95」の差は、一年や二年ではどうにもできない大きさなので、生涯かけて最終的に「100」に到達できればいいかなと思います。

なんか、もうね。

最近こういう感じの自分語りが続いていますが、投稿に対して真剣であるが故に、日々感じるものがものすごく多いんですよね。

『スペシャル版』にも書いたけど、それでもまだまだ足りません。

というわけなので、投稿に関して思っていることを、これからも日々発信していきたいと思います。

そう……！

自分のこの手は、文章を書くために存在するんだ……！

『らくだ図書館スペシャル』ですが、パブー版が700PVを突破しました。

嬉しいです！

ありがとうございます！

すでに何度も言っている通り、投稿エッセイを書いても、新人賞には投稿できません。

じゃあ何故書いたかっていうと、それはただ純粹に「伝えたいから」。
書くこと自体が、そして誰かに読んでもらうことが、ある意味で最終目標。

だからこそ、PV数が伸びていくのは、自分にとってすごくモチベーションの上がることです。

それは『スペシャル』に限らず、普段のブログも同じなんです。

もっと心に響くように。

もっと読みたいと言ってもらえるように。

そのために、自分は今夜、何を書いたらいいのか？

そういうことを日々考えているわけですが、結局一番の近道は、「本気で思っていることを書く」じゃないかと。

ポップソングの歌詞でも、一見きれいな言葉が並んでいるのに、いまいち感動できないものってありますよね。

それとは逆に、何気ない日常の出来事でも、妙に共感できる歌詞もあったりするし。

ブログもそれと似ている部分があると思うので、常木らくだという投稿者の日常に、これからも共感してもらえたら嬉しいなと思います。

衝撃の事実！

「アマゾン」という単語には、「マゾ」という文字が隠されている！

そうか……。

だからあんなに安くて、しかも送料無料なのか……。

と思っていたのに、この週末にかけて、商品を一齐値上げしたとの情報が。

お客を喜ばせておいて、どん底に突き落とす！？

ド M と見せかけて、本当のところは、ド S だったのか！？

いや、まだわからない……。

何しろヤツは、自分から「マゾ」を名乗っているくらいだ……。

うん、そうだ！

周囲の罵声を浴びたくて、わざと値上げしたという、真のド M キングかもしれない！

と思っていたのに、今になって徐々に、値段が戻っているとの情報が。

そういうわけで。

アマゾンの真の性癖(?)は、結局わかりませんでした。

あの騒ぎは何だったの？

ただの気まぐれ？

まあでも、低額商品の送料無料をやめるという話もあるし、今回の件が仮にシステムエラーだったとしても、商品を値上げしたいのがきっと本音でしょうね。

これは顧客側の勝手な願望ですが、「値上げ&送料必要」になったら他のネットショップと差がなくなってしまうので、アマゾンにはどうか現状を維持して欲しいです。

電撃に投稿する予定の作品を、今日から書き始めました（爆）

だっ、大丈夫……！

去年だって、3月19日から書いて、ちゃんと投稿できたもん……！

何を書こうか色々迷ったんですが、今回はテーマは「昼ドラ」に決定です。

これまでの評価シートから察するに、自分の最大の持ち味は「ほのぼの」らしいですが、今回はあえてそこを封印してドロドロの人間関係を書いてみたいと思います。

目標とするところは、そのまま昼ドラとして放送できるような、面倒くさい愛憎劇。電撃で通るかは知りませんが、まあ通らなかったら、一般にも送れるような内容で。

しかしまあ、普段と違う物を書くのは、ものすごく楽しいですね！

得意分野を書くのだから当然楽しいんですが、ちょっとはずした物を書くのは、なんというか新鮮な爽快感があります。

あと、新作に取り組むのは11月のGA以来なんですけど、書き始めた瞬間「ああ、自分の居場所はここなんだ」って感じました。

本気で小説を書くことによって、乱れていた精神状態が安定する、とでもいうか。

そういうわけで、2月の段階では「今年は無理かも」と思っていたんですが、これだけ気持ちがハマれば3週間で書けるはずなので、精いっぱいの本気を詰め込んで頑張ってみようと思います。

何しろ今回の電撃は第20回で、しかも自分にとっては5年連続の一次通過がかかっているんで、ここで参戦しないわけにはいきません……！

そんな、「何しろ今回は」という強力な死亡フラグを立てつつ、今日は以上です。

今取り組んでいる作品は、視点変更がすごく多い内容なので、そこが難しくもあり楽しくもあります。

章ごとに視点が変わる話は、これまでも結構たくさん書いてきたけど、今回はエピソードごとに視点キャラが変わる作品ですからね……。

でも、なんかね。

ここにも散々愚痴を書いたけど、「主人公は高校生の男子で、できれば一人称がいい」みたいなことを言われて、そのコメントを読んだ自分はものすごく悔しい気分になったわけです。

そんなことはない！

そうじゃなくっても、面白い小説は書ける！

主人公が大学生だろうが、ヒロイン目線で話を進めようが、視点キャラを頻繁に移そうが、どこに問題があるっていうの？

でも、自分は投稿者だから、そう思っても相手（編集者さん）には届けられない。

じゃあどうしたらこの気持ちが静まるかっていうと、「高校生視点の一人称」ではない作品を書いて、それで結果を残すしかないと思ったわけです。

そうすることで、自分は間違っていないことを、誰より自分自身に証明したいなど。わたし達投稿者は、選評に意見できない以上、作品で主張するしかない存在ですから。

そんなわけで、ラノベ的には需要のなさそうな、渾身の昼ドラ執筆。

まあこの作品が落選したら、自分が正しいということは証明できませんが、頑張って書くこと自体は自由だと思うので、全身全霊をぶつきたいです。

ツンデレのどこがいいんだ！
ヤンデレの方がいいに決まっているじゃないか！

というわけで。
今回書く作品は、メインキャラがヤンデレです。

自分は常々思うんですが、ヤンデレの魅力の根底には、「ギャップ」があると思いませんか？

ヤンデレのどこに萌えるかって、当然病んだ姿に萌えるわけですが、ずっと病み行動をしていたら、それって単なるストーカーじゃないですか。

そうじゃなくて、普段は明るい性格なのに、特定の条件下で「闇」や「病み」が発動する。

そうです！
その執念が萌えなんです！

なのでそういうキャラを書きたいんですが、いざ執筆するとなると、これがなかなか難しいことであって……。

思いっきり明るい姿と、思いっきり病んでいる姿を書いた方が、ギャップ（魅力）は大きくなりますよね。

しかし描写に失敗してしまうと、「性格がブレている」「キャラが破綻している」「言動に一貫性がない」という評価になってしまうので、二面性のあるキャラは難しいなど。

だからこそ、明るい面にも理由を持たせて、病み行動にも理由を持たせて。

実践するのは難しいことですが、ツンデレと違ってヤンデレは自分内に需要があるので、全力で頑張ろうと思います。

「隠し事をする」と書きたかった部分が、「書く仕事をする」に変換されて、激しくテンションが上がりました。

そうだよ！

そういう仕事がしたいんだよ！

こういうやる気が上がる、グッジョブな誤変換なら、いつだって大歓迎です。

しかしながら、「新入社員」が「侵入者イン」になった時は、脱力しましたが。どう考えても、そっちの変換の方が不自然だろ！……っていう。

そんなこんなの、小説執筆 with 一番搾り。

それにしても、3月下旬から電撃投稿作（しかも長編）を書き始めているという、このどうしようもない崖っぷち感……。

ちなみに自分の場合、書いていない期間が、ものすごく長いんですよ。書かない時は、それこそ3か月くらい、まったく小説を書かなかったり。

しかしいったん書き始めたら、平均して1か月で仕上がるという。

フルタイムで働いていても1か月だし、書くことだけに集中していても1か月だし、それが自分の執筆サイクルらしいです。

それでまあ、書いている期間と書いていない期間を平均したら、一年間に書く作品数はだいたい5本～6本程度。

というわけで、特にオチはありませんが、今日は執筆ペースの話でした。

とにかく今は……！

電撃に参戦しないわけにはいけないので、火事場の馬鹿力で頑張ります……！

今日の話は、小説を書く時の「感覚」について。

普通は小説を書く時って、文字を書いて作品を作っていくものだと思いますが、自分は逆だったりします。

作品の方が先にある。

それを脳内で再生する。

そして、その脳内映像を見つつ、それを言葉で表現していく。

この時イメージがしっかりしていないと、細かい描写が甘くなってしまうので、その部分にはものすごく神経を使います。

キャラの表情やら、声の調子やら、周囲の風景やら、その場に流れる空気やら。

それが完全にできてしまうと、あとは見える物を表現するだけなので、書くのに時間はかからないという。

ただ、いつでも作品が見えるわけではなく、その瞬間はたまにしかやってこないもので、見えない時は何も書かないことにしています。

作品が見えていない時は、どれだけ文字を打ち込んでも、その文章に魂は宿らないと思うので。

という持論を展開しながらの、小説執筆 with サッポロ黒ラベル。

とにかく結論として思うのは、執筆に必要なのは「机に向かっている時間の長さ」ではなく、「書きたい気持ちの大きさ」だと思うわけです。

自分の中に、伝えたいことが何もなければ、言葉は生まれてきませんものね。

だからこそ、誰に否定されようと、自分の感情は大切にしたいと思う次第です。

今書いている作品はシリアス路線で、笑いの要素が少ない内容なんです。

真顔でそういう作品を書いていると、バカバカしいギャグを入れたくなくて、執筆中に手が震えます。

お前ら、そんなに暗くなるなよ！

よし、いっちょ笑わせてやるか！

……自分の作品に対して、そんな感覚。

でも、それをやってしまうと、中途半端になりそうで。

ギャグならギャグ、シリアスならシリアスで、片方に徹した方がいいのかなあと。

何しろ自分、「作品の雰囲気壊す唐突なギャグはどうかと思います」って、評価シートに書かれたことがありますからね。

自分で雰囲気を作っておいて、捨て身のギャグでそれを壊す、究極の残念クオリティ。

しかし、評価シートってコメント欄がものすごく限られているのに、わざわざそんな指摘をさせてしまったなんて、そのギャグはどれだけ激しくスベったのか……。

しかも、書いた本人は、心当たりがないっていう。

唐突って、どれのこと？

この作品に仕込んだギャグは、すべて面白いと思うけど？

↑ こういう部分が、きっと一番問題なんじゃないかな。

とにかく同じ失敗をしないために、今回は捨て身のギャグを封印して、真面目な顔で最後まで書き上げようと思います。

グーグルで「ワナビブログ」を検索すると、トップにこのブログが表示されることに、戸惑いを隠しきれない常木らくだです。

もういっそ、作家を目指すのはやめて、ワナビブログの頂点を目指すか……！

それはそうと、今はシリアスな昼ドラを書いています、意外と違和感なく書ける自分にビックリしています。

なので、この作品の結果次第では、メインの投稿先を一般に移そうかなと。

と、いうのも。

別に最近の少年系ラノベが無理なわけではなく、軽めの萌えラブコメも抵抗なく書けるんですが、どれだけ書いても結果が全然出ないわけです。

だからひょっとすると、「書ける」と思っているのは単なる思い込みで、実際は少年系を正しく書けてないんじゃないかと。

そういう疑念があるので、今後は一般にも目を向けようかな、と思ったわけです。

一般の競争は相当に激しいと思いますが、だからといって、ラノベが楽なわけじゃないですもんね。

四年近くラノベの投稿を続けてきて、それはもう十分にわかっています。

戦う場所が違うだけで、どちらも厳しいことに、まったく変わりはないわけで。

まあラノベをやめるわけじゃなく、中途半端にどっちも書くつもりですが。

通過歴はないですが、少女系も、これまで通り続けますし。

そんな雑食人間ですが、ワナビブログの頂点を目指して、今後も頑張ろうと思います。

いつ投稿するの？
来年でいいでしょ！

そう思って逃げ出したくなる自分にムチを打って、電撃投稿作を執筆中ですが、どうにか締切りまでに完成しそうな雰囲気です。

あ、「ムチを打って」って、あくまで比喩的な表現ですよっ！（当たり前）

コホン。
それでまあ、進捗状況なんです。

ヤンデレキャラの明るい側面を書き終わって、これからダークな側面を描写するんですが、どのくらい書いていいのかわかるどころです。

どうせ書くなら思いっきり深く書きたいけれど、あまりにも病み病みだと、「このキャラ無理」と思われてしまいそうだし……。

まあでも、中途半端にヤンデレを書いても仕方ないと思うので、NG覚悟で思ったままに書いてみようと思います。

あと、そのキャラは最後に救われるわけですが、救いのエピソードがまだ明確ではないので、そこも早く固めてしまいたいところです。

自分はヤンデレ好きなので、別に病んだままでもいいんですが。
しかし新人賞の投稿作品としては、救いがあった方がいいのかなーと。

というわけで、今日は執筆中のひとりごとでした。

一応4月10日までに完成しそうではありますが、しかし油断はできないので、まだまだ気を抜かずに踏ん張ろうと思います。

作品のタイトルを決めちゃったぜ！

今回は時間がないので、タイトル未定のまま書き進めていたんですが、今日ふと気がついて、作中のキーアイテムをそのままタイトルにすることに決めました。

というわけで。

今回はシンプルな、単語タイトルです。

今まで「バンジョーニ！2」とか「激烈ワナビ戦」とか、ネタ臭の漂う作品を電撃に投稿してきましたが、今回はウケを狙わずに本気で受賞を狙うつもりです。

いや。

そもそも受賞を狙うのが普通であって、ネタで投稿する方がおかしいんですが。

べっ、別にいいじゃない！

リストで目立って、「アイツは馬鹿か？」って、みんなに言われたかったんだもん！

まあとにかく、タイトルが決まったので、その瞬間に愛着もアップ。

それから今回は、今までと違って投稿仲間が増えたので、その方々と一緒に名前を載せるためにも頑張りたいと思います。

なんかこう、電撃で知っている名前を見つけると、甲子園でライバルに再会したような気分になるんですよ。

「予想通り、アイツは今年も勝ち進んできたな……！」みたいな。

「一年で成長したんだろうが、こっちだって負けないぜ……！」みたいな。

そんな暑い夏を迎えるために、あともうちょっと頑張ります。

電撃に投稿される予定の皆様は、甲子園（一次発表）で会いましょう……！

すでに何度か書いていますが、『らくだ図書館スペシャル』の評判が自分の想像以上で、本当にありがたい限りです。

感想を送ってくださった方や、ツイートしてくださった方は、どうもありがとうございました。

そして、評判もとても嬉しいんですが、あれを書いて公開したことで、自分にもいい影響がありました。

何がいったって、文章が書きやすくなった！

やっぱり、ほら。

「こういう点に注意しよう」と思っているだけでも、頭で思っているだけだと、ついつい甘えちゃうじゃないですか。

そういう脳内の執筆論を文章化したことで、書いた以上は守らなきゃいけないという義務感が発生して、細かい部分に気を配れるようになりました。

実際にどの程度レベルアップしたかは、今後の評価で確認するしかないんですが、書いたことで下がった部分はないと思うので、そういう意味でも執筆論を書いてよかったなーと。

そういうわけで。

今すぐではありませんが、そのうち発作的に「2」を書くかもしれないので、その際はまたどうぞよろしくお願いします。

まあしかし、今はとりあえず、目の前の締切りラッシュが……。

まだ序盤から進めていない、3DSのドラクエ7は、いつプレイできるのか！？

それも自分の努力次第なので、集中して頑張ろうと思います。

本日、スーパーダッシュ三次落ちの評価シートが届きました。

一次落ちや二次落ちの場合は、「こういう点に気をつけましょう」みたいなテンプレ文章が入っているんですが、それはなく一枚だけでした。

そしてその一枚に、びっしりコメントが書かれていました。

あまりにもびっしりだったので、驚いて何文字あるか真剣に数えてみたら（ヒマ人かよ）、約 1,000 文字書いてありました。

やった！

800 文字のあらすじ以上に、長いコメントが返ってきた！

内容についても、いい点と弱点が具体的に挙げてあって、ひたすら感動です。

やっぱり、ほら。

一次落ちの選評って、ざっくりな評価だから、細かい部分がわからないじゃないですか。

そうじゃなくて、一つの作品に対してこれだけ詳しい意見が返ってくれば、指摘された点を次回作へ確実に反映させられるし、レベルアップの速度も大幅に早くなるのになあと。

いずれにせよ、書いた手紙にちゃんと返事が届くような、こういう具体的な評価シートは初めてでした。

三次まで行けたのはこの SD が二回目ですが、これだけのリターンがあるなら、壁を越える価値はおおいにありますよね。

というわけで。

どこまで通過できるかわかりませんが、次回も全力で参戦しようと思いました。

<内容以外で気になった点> 特にありません

とSDの評価シートに書いてあったんですが、「内容以外で気になった点」って、あるとすれば何なんでしょうね？

最初は文章作法のことかと思ったけど、文章作法も広い意味で考えれば、文章力の一部（内容の問題）ですよ。

うーん……？

あるとすれば、こんな指摘……？

- ・インクが薄いです。
- ・紙がペラペラです。
- ・ペンネームが変です。
- ・封筒の文字が下手すぎます。
- ・昭和生まれの方はご遠慮ください。

……………。

インクと紙の問題はまあともかく、下の二つだったら、暴動を起こすしかないですね。

あとそれから、「お色気の取り入れ方は現状とても良い」とあったので、読んだ瞬間に激しくガッツポーズでした。

よっしゃ、了解！

これくらいの描写が、ベストなんだな！

というわけで、エロ濃度の目安ができた感じなので、次にラブコメを書く時は参考にしようと思います。

秋の締切りは、今後GAをやめて、SDに全力投球だ……！

一足早く、来年のビーンズの要項が出ましたね。

さっそく詳細を確認したところ、募集内容が「ファンタジック、またはミステリー風なストーリー」になっていました。

えっ？

今までずっと、「ファンタジックなストーリー」だったよね？

どうした！？

時代は今ミステリーなのか！？

しかし、「ミステリー」ではなく、「ミステリー風なストーリー」ですからね。

これは推理小説ってことじゃなく、広い意味での、謎解き作品ってことでしょうか？

あとそれから、「あらすじ」だった部分が、「人物紹介とあらすじ」に変わってますね。

自分はあらすじの中に人物紹介を書いているから、その二つを分けたら、あらすじに書くことが激減しそうな気がします。

まあ、とにかく。

来年もビーンズに出せるかわかりませんが、「ミステリー風」というのは、記憶の片隅に留めておこうと思います。

しかしそれより、今気にするべきなのは、まず今年のビーンズの結果ですね。

あの都道府県順の一次発表を、前から一度体験したいと思っていたので、7月下旬を楽しみに待とうと思います。

頑張れ、自分の作品……！

今日は3月31日ということで、今日が締切りの賞も多かったと思いますが、投稿された皆様はお疲れ様でした。

とはいえ、4月も締切りが多いので、まだまだ気が抜けないかもしれません。

作業中の方は、ファイトです！
常木らくだも、頑張ってます！

それにしても思うんですが、小説投稿って楽しいですね。

もう、ほんとね。
世の中の人々は、みんな今すぐ小説投稿をすればいいのに、って思います。

自分の想いを作品に託して、そして誰かを感動させるって、素晴らしいことだと思いませんか？

創作というのはそういう奇跡で、小説を書けるわたし達はみんな、奇跡を起こす力を持っているわけです。

だからこそ。
その能力を封印して、小説を書かなかったら、心底もったいないと思います。

『奇跡、始めませんか？』

うん。
2013年度のキャッチフレーズはこれだ。

という感じで、自分内キャッチフレーズが決まったところで、今日のブログは以上です。

投稿5年目も頑張るぞー！